



名古屋NGOセンター ● 会報  
NGO=Non Governmental Organization

vol.129

2024.05 (年2回発行)

# さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。  
これを世界にたとえ、さまざまな果実(人々)の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



避難所で体操



炊き出し



女性用下着の配布

名古屋市を拠点に活動するレスキューストックヤードは、能登半島地震の発災直後から、穴水町(あなみずまち)に入り、避難所の運営、炊き出し、物資の配給、看護チームによるサポートなどを行っています。

この会報は再生紙を使用しております



logo=designed by THREE

このロゴは[N]をモチーフにし、輪で構成したデザインです。  
輪が集まり、その輪が上に伸びていくという  
NGOのこれからの活動に期待を込めたものです。

# 今、防災について考える

令和6年1月1日、石川県能登地方を震源とした地震が発生。被害を受けられた皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

見逃されがちな「障害者」「女性」「外国人」の防災についてどのような課題があるのでしょうか。今号では、それぞれの視点についてお二方にお話を伺いました。また、防災NGO「レスキューストックヤード」の機関紙「あるある」の編集会議の様についてもお伝えします。



## 自立生活センターアクセル

代表 佐藤<sup>もとのり</sup>元紀さんに聞く

## 車いすユーザーと防災

ご自身が筋ジストロフィーという障害があり、車いすユーザーでもある佐藤さん。碧海5市(安城・刈谷・高浜・知立・碧南)を中心に、今年から本格的に障害者の自立生活を支援していくために活動を始めています。防災についてどのような考えがあるのでしょうか。

### ■ 高校のバリアフリー化を進めてほしい

町内会の防災訓練に参加した時のことです。高校の体育館で開催されたのですが、車いすでも入れると思っていましたが、スロープがなく、外から中を覗き込むことしかできませんでした。私の電動車いすは重さが130kgあるので持ち上げられません。

この防災訓練が開催された場所は、バリアフリー化が施されていないために当時、入学できなかった公立高校です。20年以上経っても全く変わっていませんでした。公立の小中学校はバリアフリー化が進んでいますが、公立の高校ではバリアフリー化がほとんど進んでいません。高校は避難所に指定されていることも多く、障害者だけでなく、車いすを使う高齢者や怪我をした方などにとってもバリアフリー化を進めて欲しいです。

### ■ 近所付き合いが大事

危険がない限りは自宅避難をすることもありますが、避難所に行って名簿に名前を書かないと支援物資をもらえないということがあります。車いすユーザーはアパートに住んでいた場合、エレベータが動いていないと避難所にはすぐに行けません。そのような時のためにも普段から隣の人に挨

拶をして、「何かあったときはよろしくお願いします」と一言伝えることが大切だと考えています。

高校での防災訓練の時では、近所の民生委員の方とも初めて出会うことになったので、地域の活動に参加していくことが防災にも繋がると感じました。

### ■ 福祉避難所より一般の避難所で協力を

高齢者や障害者など、配慮を必要とする方のために福祉避難所というものがありますが、支援が必要な人を集中させることには疑問があります。24時間体制ということ考えると介助職員に負担がかかりますし、介助職員も被災者で来ることができなくなることも考えられるので、一般の避難所でも過ごせるようにすることが大切だと私は思います。

身体介助など慣れている人がサポートした方が良いこともあります。一般の避難所でも届けられた食事を近くの方が代わりに持ってくることはできます。子どもがいたら一緒に遊んであげたり、外国人の方が困っていたら言葉のわかる人を探したりしますよね。それと同じように障害者が困っていたら、どんなことを手伝って欲しいのかを聞くことはできます。特別なことをする必要はなく、できることで協力していくことが大切です。

(担当:渡辺)



## 女性、外国人にもやさしい避難所にするために

避難所において、女性や外国人の人権は守られているのでしょうか。  
「～男女共同参画で考える防災・減災グループ～ エンジェルランプ」の代表で、「多文化防災ネットワーク愛知・名古屋（通称TABOネット）」や「やさしい日本語劇団」で外国人の防災ややさしい日本語を広める活動をしている、椿佳代（つばきかよ）さんにお話を伺いました。椿さんは1月3日から現地入りして避難所の支援をしています。

### Q 避難所での女性はいかがでしたか。

地域の小さな避難所では、お母さん方が三度の食事の準備をしても、お父さん方はテーブルで待っているという光景もあり、避難所もそれぞれです。食事の準備で女性たちは疲弊していました。避難所では、プライバシーが制限される空間でストレスのたまる中、性暴力や暴言、男性による女性への下着の配布などジェンダーの問題が顕在化しています。また、水道や電気などのライフラインのない中で、女性の役割とされている家事や家族の世話が託児所・宅老所のお休みに重労働化しています。

今後は復興の段階に入っていきますが、過去の震災では、工場や事業所が崩壊したため正社員のみ雇用を継続して、パートやアルバイトなど非正規雇用の方を解雇した事例が多くありました。非正規雇用職員は女性が多いため、経済的にも追いつめられることになります。

### Q どうすればいいのでしょうか。

避難所運営の意思決定の場に女性が入ることが重要です。とはいえ、災害が起きてから急に女性が参画するのも難しいので、平常時からの男女共同参画の推進が防災・減災や復旧・復興の基礎になります。

そして災害から受ける影響には男性と女性に違いがあること、何が必要かというニーズも男性と女性に違いがあることに配慮すべきです。女性が意思決定の場に入ること、例えば避難所のレイアウト、照明、巡回を工夫することにつながります。

また性犯罪については、避難所という環境のせいにするのではなく、男性・女性ともに毅然としたリーダーの姿勢が必要です。

### Q 外国人の方はどうでしたか。

外国人と日本人の間には、5つの壁があると言われます。1つめは「言葉の壁」。避難所の掲示物はすべて難しい日本語です。「炊き出し」「給水車が来ます」「公共交通機関は不通です」などは、「食事をくばります」「飲み水がもらえます。」「電車やバスはうごきません」というやさしい言葉にし、わかりやすく伝えてください。ありがたいことにこの数年で「やさしい日本語」が少しずつ浸透してきました。

他に、偏見などの「心の壁」、法律や税金などの「制度の壁」、ハラル食や土葬などの「文化の壁」があります。気づきにくいものに「経験の壁」があります。私たちは、自然災害の度に避難生活のことをテレビや新聞で見ます。しかし来日して日の浅い外国の方は被災経験がなく、被災後の状況を理解することができずに不安になってしまいます。

能登半島地震でかかわった避難所には、外国の方はいませんでした。ベトナムの技能実習生の方たちがスマホを充電するために寄った程度です。職場を避難所として集団生活をしているようですが、支援が行き届いているかわからず、心配しています。



避難所で足湯を手伝う椿さん

（担当：丹羽）

# レスキューストックヤード機関紙「あるある」 編集会議に参加しました

名古屋市を拠点とする防災NGO「レスキューストックヤード」。その機関紙「あるある」は主にボランティアによって作られています。能登半島地震の被災地の現状やレスキューストックヤードの活動をどのように伝えているのでしょうか。編集会議に参加してみました。

## ■レスキューストックヤードの能登半島地震での活動

レスキューストックヤードは地震の2日後の1月3日から、鳳珠郡(ほうすぐん)穴水町(あなみずまち)を拠点にして活動しています。人口7,300人の農業や水産業が主要な産業の町ですが、高齢化率が約50%と高く過疎化が進んでいる町でもあります。被害は死者20人、全壊491棟、半壊1,416棟にも及び、30ヶ所の避難所で890人の方が避難しています(2月7日現在)。

藤田学園大学やNPOと連携して、炊き出しや避難所の環境改善、在宅避難者の戸別訪問、看護・福祉チームによる専門的なサポートを行ったり、関東方面のプロの料理人さんがボランティアとして炊き出しに協力してもらい毎日800食(最大は1,500食)提供しています。

また能登半島地震の被災者支援活動への寄付金は18,829,708円(2月10日現在)に達し、人材の派遣や物資の送付に活用しています。

## ■編集会議に参加しました

編集会議は毎週水曜日18時30分からzoomで行い6~7人が参加しています。さんぐりあと同じ8ページですが、さんぐりあは年2回しか発行していないのに対して、年5回も発行しています。編集会議は1号につき8回会議をすとか(さんぐりあは4回です)。とはいっても、他に仕事を持っている方がほとんどなので、1時間くらい遅れて参加する方やたまにしか参加できない方もいるなど、できる範囲で取り組まれています。世代や性別もばらばらで、どうしたら読者に防災の意識を高めてもらえるのか、レスキューストックヤードの活動をどのように伝えるのかに真摯に取り組んでいる一方で、笑い声や雑談もあるなど、さんぐりあの編集会議に似ているなあという印象を持ちました。

私が参加した編集会議は最終の8回目で、原稿やイラストの校正をしました。能登半島地震の現地にいる編集ボランティアさんも参加しています。多岐にわたるレスキューストックヤードの穴水町での活動を限られたページでどのように伝える

か、何回も文章を直して原稿ができません。200人が避難している避難所のトイレ問題も、できるだけ汚さない使い方、掃除を簡単にする方法、凝固剤の適切な量など、直面しないとわからない問題が、イラストを使って上手に表現されて、次に被災を受ける可能性のある方たちの役に立つようにという思いが強く伝わります。



## ■前号の「あるある」はペット対策

平常時の号は、活動紹介より防災意識の高揚が中心になります。前号の特集は「人とペットの災害対策」。現在のルールは避難所によって様々で、A会議室には人、B会議室にはペットとする避難所、人とペットの同室避難まで可能な避難所もあれば、ペットと同伴できない避難所もあるようです。他にもペット用避難グッズや備蓄品のリスト、平時からしておくことのリストなど、切実に感じている人しか作れないレベルの高い記事に驚くばかりです。

あるあるは2002年から発行しており最新号は第128号。さんぐりあは1995年から発行して今号で129号ですから、そろそろ追い越されます。編集会議に参加して、お互いの長い歴史やノウハウを感じました

(担当:丹羽)

**私** がボランティアの世界に入ったきっかけは、東日本大震災です。中でも、大きく影響を受けたのは、石巻市でのボランティア活動でした。その内容は、仮設住宅を回って、入居者の方とお話するというものでした。肉体労働的なものではなかったで、最初は拍子抜けしました。しかし、仮設住宅の入居者と話をしているうちに、人間が生きて行く上で、コミュニティを作って行くことが、非常に重要なことだと感じました。多くの入居者の方は、震災でお友達や知り合いを亡く、仮設住宅では孤立していました。話し始めたら1時間以上話が止まらない方もいました。

この活動を行うため、何度も石巻市に足を運ぶうちに、あることに気づきました。現地のNPOの職員として働いている人や、長期に渡って活動している人ほど、生き生きしているのです。公務員をしていた私は、毎日の仕事に追われ、疲労困憊でした。なぜ、あんなに生き生きしているのか？その疑問を持ち、さらに行きたくなりました。

エッセイ  
**NGOの散歩道**  
第39回

平時のボランティア活動が  
災害時に大きく機能する

このような経験からNPO活動に興味を持ち、公務員を辞めて名古屋NGOセンターのNたま研修に参加しました。その頃は、市内の小規模な防災団体所属でしたが、昨年からは、ボランティア連絡協議会の会長として、市内12分野38団体約500人の取りまとめを行っています。

30年以内発生確率70%以上と言われている南海トラフ地震、未曾有の大災害が起きた場合、そこからの復活には必ずボランティア団体やNPOの力が必要になります。防災団体には、災害対策を楽しく継続的に学ぶことができるようにすることが求められます。また、平時からのボランティア団体同士の結び付きを強くしておくことで、災害発生時の復旧を早めることができると確信しています。

安城市ボランティア連絡協議会 会長  
元名古屋NGOセンター政策提言委員

筒井広治

さんぐりあ編集委員がおすすめするモノ・ヒト・メディア情報

**NANGOC RECOMMENDS**  
なんごく りこめんず vol.77

このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。NGOに関するあらゆる「おすすめもの」情報をおよせください。e-mail: info@nangoc.org ※「NANGOC」とはNAGoya NGO Centerの略です。



真宗高田派 賢隆山 久遠寺

中島正人の  
オススメ



オーガニック野菜と自然食品、フェアトレードの店

桜井裕子の  
オススメ

**NOPPOKUN (のっぽくん)**

インド音楽シタール演奏会の会場として出会った久遠寺。名古屋都心・中区新築の境内に一歩入ると、ほっとする空間がビルの谷間に。本堂であるヨガ教室などにも通ううちに、お寺の「おそなえ」を困りごとを抱えるひとり親家庭などへ「おすそわけ」する、「おてらおやつクラブ」の発送作業にも参加するようになった。

2013年「大阪母子餓死事件」の報道に接した、奈良のお寺の住職・松島靖朗さんがひとりで始めた行動が、今や2000に迫る寺院が参加する活動にまで広がった。久遠寺の高山信雄さんも、この活動の初期から参画、認定NPO法人となった団体の理事でもある。

高校時代までは、「清洲越し」400年のお寺に生まれた境遇に葛藤もあったという高山さん。地域に開かれ、悩める人々とも向き合うお寺の在り方を求めている。2011年の東日本大震災の衝撃が、これからのお寺の在り方を

問われた若い世代の住職たちを、社会課題に向き合わせてきた。その課題と向き合う活動のひとつが「おてらおやつクラブ」でもありそうだ。



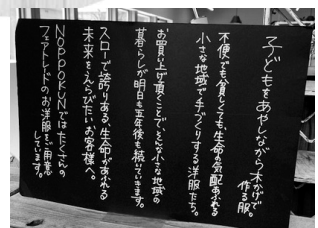
右端が高山信雄さん

住所:名古屋市中区新築1-4-6

金沢駅から電車を乗り継いですぐ、野々市市にあるフェアトレードと自然野菜のお店「のっぽくん」訪れてみると魅力がいっぱい。見えてきた2階建てウッド調の建物、ぞくぞくと車が入っていく。店に入ると高い天井で解放感、都心の手狭な店より商品も豊富。厨房も隣接され、お昼時には数々のお弁当が並べられた。どれをとっても間違いなく体が喜びそう。洗練された店内のあちこちには丁寧に説明された手書きのポップがいい。

2階へ上がると、フェアトレードの衣料品や雑貨。靴を脱いで入るスタイル。なるほど、奥には赤ちゃんを連れたお母さんもゆっくりできる広い座敷スペース。木で統一されたカフェスペースで、支援にもつながる出張出店(不定期)の食事をいただいた。窓からは遠くの山まで見え、まるでフェアトレード商品の故郷を思うよう。見て優し、嬉し、心も体もゆっくりと堪能できる。帰り際、野菜の調達に来ていた能登の復興支援隊の若者に出会った。石川の支援と合わせてぜひ立ち寄り寄ってみては。

石川県野々市市本町2-1-1  
TEL:076-246-0210  
営業時間 10時~19時  
(日曜・祝日18時30分)  
月曜定休(祝日の月曜日は営業)  
http://noppokun.co.jp/



# Nたまのいま

No. 49



かとう りさ  
Nたま8期生 加藤里紗さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てるコミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002～2023年度までの20回で（2004年、2020年度はお休み）、研修を受けた方は286名。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今どこで、どんな活動をしているのでしょうか？第49回はNたま8期生、加藤里紗さんにお話を伺いました。加藤里紗さんは『さんぐりあ』編集委員として「Nたまのいま」を担当してくださいました。

## 金沢とつながる名古屋NGOセンター

### ■Nたまで印象に残ったことは？

会社員として働きながら国際協力に関わってみたい、という軽い気持ちで参加しました。しかし入学式でNGOセンターの理事・竹内由美子さんに「あなたたちは実際に活動するのではなく、学ぶことから始めたのです」と言われ、誰かになにかを教えてもらおうとしていた自分の受動的な態度に恥じ入るばかりでした。同時に、せっかく学ぶのであれば、学べることは全部学ぼうという決意が固まりました。結果的に、このギアチェンジのおかげで何ごとにも能動的に臨むことができるようになったので、あの厳しくも温かい言葉は私の人生を変えたと言っても過言ではありません(笑)。

### ■Nたまで学んだことは？

仕事を休めなかったので平日の夜と週末はすべてNたま、という日々でした。そんな中で会社の同期にNたまの話をしたときにまるで関心がなさそうな反応をされ、またショックを受けました。世間の人には国際協力やNGOに全然興味がないのか！と。NGOの活動に興味を持ってもらうにはどうすればいいのか？という課題が頭を占めるようになりました。

### ■Nたま修了後はどんなことをしましたか？

課題が見つかったとはいえ自分には

何の専門性もスキルもない、という現実には直面し、会社を退職して大学院に入学しました。大学院で環境政策を研究しながら「さんぐりあ」の編集に携わりました。「さんぐりあ」では主に「Nたまのいま」コーナーを担当しました。このコーナーを読むと、多くの修了生が様々な分野で活躍していることが分かり、Nたまの意義を実感します。

### ■現在の仕事について教えてください。

大学院を修了し、2024年3月まで石川県金沢市の大学で「持続可能な発展」をテーマにした講義などを担当していました（4月から関東の大学に移籍）。NGOスタッフやボランティアをしている方をゲストに呼び、学生にとって環境・社会問題を「自分ごと」として引きつけて考えられるような授業を目指しました。NGOセンターの村山さんにもお越しいただきました。ようやく、Nたま時代の課題に着手することができたかな、という思いです。

2024年元旦、石川県の能登半島は大地震に見舞われました。金沢では地域の消防団の活動が盛んですが、実際に地震が起きたときにどうするか、被害を最小限にするまちづくりとは、といった当事者意識をともなった防災意

識は薄かったように思います。消防団に参加している学生曰く、地域で避難訓練を行っても若い人の参加率は低いようです。

被災地ではNGO/NPOによる支援が大きな役割を担っています。いまは緊急支援すら十分に行き届かない状況ですが、いずれ来る復興のフェーズでも市民が主体となった活動が期待されます。しかし能登地方は高齢化と人口流出が進んでおり、土地の隆起によって主幹産業である漁業の再開の目途も立たない状況で、どのような復興が可能であるのか見通せません。お上が何とかしてくれるという意識ではなく、市民が主体となったまちづくりができるのか、それに向けて私たちに何ができるのか、引き続き考えたいと思います。



担当している「持続可能な発展論」で名古屋NGOセンターの村山さんをゲストスピーカーに招へい

(担当：内藤)

# センターの動き

## 政策提言

### 「開発協力大綱改定—日本の市民社会による関与とそのインパクトを検討する」の開催

日本の開発協力政策の基本方針を示す「開発協力大綱」が、昨年6月に改定されました。この新大綱に市民の声を反映させるため、「開発協力大綱改定に関する市民ネットワーク」が結成され、数々の取り組みを行いました。

これを踏まえ、大綱改定プロセスにおける市民社会の関与の成果と制約を検討し、今後の取り組みを企画するため、名古屋NGOセンター政策提言委員会等が主催者となり、2月24日にイベント「開発協力大綱改定—日本の市民社会による関与とそのインパクトを検討する」を開催しました。

イベントでは、佐伯奈津子さん(名古屋NGOセンター政策提言委員)が大綱改定プロセスにおける市民社会の取り組みの概要を説明し、稲場雅紀さん(アフリカ日本協議会共同代表、有識者懇談会委員)が市民社会の取り組みについて、その目的や結果の観点から振り返りかえりました。また、木口由香さん(メコン・ウォッチ事務局長)は市

民社会の取り組みをアドボカシーNGOの視点から評価し、鈴木千花さん(持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム前事務局長)は若者の視点からそれを評価しました。フロアとの質疑応答では、多様な観点から熱い議論が交わされました。



イベントには多くのNGO関係者や研究者が参加し、熱い議論を交わした

(報告:政策提言委員 今野泰三)

## 人材・活動育成

### インターンを終えて

#### 小川 友聖さん

高校の留学で得た経験を経て、また社会に出ていく上で必要な力を身につけたいと考え、インターンに応募しました。国際協力カレッジでは初めて運営する立場になり、不甲斐なさもありましたが、自分自身も周りの人から多くのことを学び、成長することができました。

半年前まではインターンの「イ」の字も知らなかった私を快く迎えてくれて、私にとってすべての時間が私の将来につながるように感じました。NGOセンターでのインターンを機にさらに活躍できるように精一杯頑張ります!また遊びにきまーす!!(∇∇)



#### 深谷 友香さん

自身の後発開発途上国でのインターンから帰国後、ネットワークNGOに関わりながら体系的な知識を得たいとインターンを志願し、そこから現在まで本当に多様な気づきや縁を紡ぐことができました。中でもNたまでの、ベテランNGOの方々からの講座を通して、NGOの主眼を養う理論について学びが多くありました。

半年前の私は、NGOや国際協力という非常に学際的な領域で、何をどう学んだらいいかわからない霧がかかった状態でしたが、インターンを通して体系的に理論を学び、思考の種を沢山蒔いて頂きました。このような成長の場を提供していただき、ありがとうございました。NGOセンターの皆さん大好き!! ^ ^



## 活動報告カレンダー 2023年9月1日～2024年2月29日

### ●ネットワーク

- ・シーテック クリック募金2023(6～1月)2万クリック達成
- ・NGO福岡ネットワーク「30周年記念イベント」ゲスト出演(11/23@福岡)
- ・全国ネットワークNGOの集い 世話人&参加(11/30)
- ・コラボメッセ@愛知淑徳大学 ブース出店(12/17)
- ・NGO組織強化シンポジウム2024(アユス主催) ゲスト出演(2/6)

### ●コンサルティング

- ・NGO相談(外務省NGO相談員):9～2月410件、出張相談(10/22@福井国際フェスティバル2023、12/2@ほらマッチ、12/9@国際協力カレッジ)、連絡会議(11/27,28)

### ●情報収集・発信

- ・会報『さんぐりあ』11月号発行(1,000部)・発行(10/17)

情報発信		9月～2月
ホームページ	センターからのお知らせ更新回数	17
	中部NGO情報ひろば更新回数	33
facebook(フォロワー数 1,390)	更新回数	75
Instagram(フォロワー数 303)	更新回数	29
メルマガ(登録数 242人)	配信回数	34

### ●政策提言

- ・NGO・JICA協議会 参加(9/13)
- ・多文化共生パートナー育成講座 開催(9/23,11/12,12/16,2/4)
- ・西サハラ全国キャラバン2023 in名古屋 開催(11/6)
- ・あどぼスゴク体験会 提言委員会&横のつながり勉強会(11/19)
- ・ODA政策協議会 参加(12/14)
- ・「開発協力大綱改定—日本の市民社会による関与とそのインパクトを検討する」政策提言委員会共催(2/24)
- ・【外務省への要請文】「イスラエル・パレスチナにおける武力行為の即時停止への働きかけを求めます」賛同
- ・【報道関係者への要望書】「現在ガザ地区で起こっているジェノサイド(大量虐殺)を止める報道を!」(日本YWCA)賛同
- ・【国会議員への要望書】「ガザへのジェノサイドを許さない!即時停戦と封鎖解除を!」賛同

### ●人材・活動育成

- ・NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ2023(Nたま)講座(9/16-18,10/1,14,28,11/12,25,12/3,1/13,2/3)、修了式(2/10)
- ・愛知淑徳大学 研修受け入れ&講座実施(11/4)
- ・国際協力カレッジ2023(12/9)
- ・インターン説明会(2/22)

### ●運営

- ・名古屋NGOセンター 35周年記念イベント(9/3)
- ・理事会(9/14,10/20,11/17,2/16)
- ・職員会議(9/12,26,10/10,24,11/7,21,12/12,26,1/16,2/13)

●賛助会員(個人/更新)

稲葉健吾、蒲池卓巳、平井英司、堀川絵美、海野香織、藤井朋子、長町諭、佐藤玲子、桃井義博、石井りか、村田直美、貝谷京子、横井春香、岩田崇、笠原聡太郎、藤村昭子、梅村紀彦、外村悠、守屋保美、瀬川義人、鈴木英司、森元裕恵、小森夏未、株根秀之、細井和世、佐原恵津子、西川侑里、八木巖

●賛助会員(団体)

(株)シーテック

●寄付者

【一般寄付】真如苑、丹羽輝明、中島隆宏

【東海ろうきんNPO寄付システム】

伊藤武士、宇野菊夫、大島京子、加藤勝子、大野博人、後藤文昭、酒井俊偉、水野愛、目加田貴弘、山田志帆、松下和哉、中島正人

【Nたまサポーター】

堀川絵美、田中幸男、加藤里紗、松浦史典、春田みな美、原田篤実、八木巖、栗田佳典、村上沙智代、大須賀恵子、松浦良子、塩田真也、佐藤光、西川侑里、横井春香、松本恭一、尾崎寿光、谷川毅、齊藤尚文、坂部武志、近藤公彦、中尾さゆり、藤井朋子、齊藤順子、桃井義博、遠山涼子、山本梨恵、神田すみれ、裏見登志子、龍田成人、鉄井宣人、加藤里紗、高木雅成、二角智美、吉岡嗣晃、吉川典子、松浦史典、中島隆宏、笠原聡太郎、河合良太、天野友貴、平林義康、北村祐人、株根秀之、磯村さやか、

小池康弘、中島正人、和田さとみ、東憲吾、筒井広治、細井和世、佐藤元紀、貝谷京子、小森(久田)夏未、高野菜、大川元嗣、榊原浩之、瀬川義人、丹羽俊策、横井春香、森元裕恵、中垣貴裕、水谷洋子、渡辺祐樹、岩瀬孝弘、柴田さくら、武藤由師、チェルノブイリ救援・中部、吉田弘生、田中由衣、竹内由美子、高橋美和子、佐藤光、黒田朱里、石川博仁、伊沢令子、青木研輔、熊澤友紀子、関口威人、神谷周作、池住義憲、工藤泰三、落合佑哉、田中典子、三ツ松由有子、藤本潔、窪川佐紀、和田信明、岸本正好、村田元夫、寺田裕美、鈴木二葉、松中みどり、和喜田恵介、青山岳史、浅野愛美、柴田英知、久世治靖、川島知司、川合眞二、福嶋聡子、櫻井裕子、中島正博、後藤優里、大屋正人、前倉英人、尾関智枝

【35周年記念募金キャンペーン】

増田いづみ、羽佐田美千代、横山紀子、龍田成人、武藤由師、今枝久、中島隆宏、林かぐみ、水谷洋子、小野田由紀子、高橋美和子、小田孝、杉本正次、高木雅成、裏見登志子、加茂省三、小久保紀子、平尾秀夫、福田美津枝、加藤勝子、安村妙、黒田朱里、土井幸子、木村仁志、市川隆之、藤井朋子、藤本潔、飯田章雄、和喜田恵介、佐藤光、青木研輔、伊佐次歩、田中里枝、(株)シーテック、真如苑、オヴァ・ママの会、ベシヤワール会名古屋、宝泉寺、伊藤幸慶

【外貨】ピニンブラザーホッド東海、林かぐみ、ルティカ

●アフィリエイト

アマゾン・ヤフー31円

●協力者【10/31発送作業ボランティア】

いっちゃん、がんちゃん、マサ、よしかわ、矢内、とも

2024年2月29日(木)  
-7月15日(月)  
10:00-18:00

JICA中部なごや地球ひろば

5/17(水)から!

JICA海外協力隊  
春募集は

名駅・ささしま  
アクセス | 名古屋駅から徒歩13分  
休館日 | 月曜・年末年始  
(祝日の場合は開館、翌平日が休館)

事務局のひとこと

未開の地へ...ということで、奄美大島に行ってきました。お家で育てている植物が地植えされていて、日本列島の長さを実感。おいしい食べ物と緑かさとのんびりとした時間に癒やされました。次は、与論島に行きたい。(加古)

編集後記

裏金問題を見ると、今年は確定申告をしないでおこうか、とも思ったが、結局やってしまった。仕事は一段落したかと思ったら、すぐ来年度の準備。止めとけばよかったのに紀要の原稿も引受けてしまった。年度末は本当に忙しいけど自業自得か?(内藤)

レスキューストックヤードさんの機関紙「あるある」は、イラストを効果的に使っていて本当にわかりやすいです。災害に役立つことばかりでとても参考になります。「さんぐりあ」の共通点は編集ボランティアの熱意がすごく高いこと!ぜひそちらもご一読ください。(丹羽)

フェアトレードで日常の“非常食”

非常時に食べ慣れないものを食べるのは、もっと不安!  
レトルトカレー・羊羹・ドライフルーツ・ナッツなど、保存が利く美味しいものを備えませんか?



顔のみえる店~FAIR TRADE 風(ふ〜ず)

〒462-0844  
名古屋市北区清水5丁目10-8  
グリーンフェロービル3C (EV有)  
営業日/月・木・金・土 12時~17時  
TEL/070-9120-8820 (電話は営業時間のみ)  
MAIL/huzu.fairtrade2@gmail.com



メールやDMでのご相談もお気軽にどうぞ

発行: 特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター  
会報編集委員: 市川隆之、中島正人、廣井修平、桜井裕子、内藤裕子、丹羽輝明、渡辺祐樹、村山佳江  
レイアウト: 桜井裕子、渡辺祐樹  
発行日: 2024年4月16日  
印刷: 山本印刷有限会社

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F  
TEL & FAX: 052-228-8109 URL: http://www.nangoc.org  
E-Mail (代表): info@nangoc.org

会報『さんぐりあ』のレイアウトをボランティアで担当して下さる方を募集しています。ご自宅でイラストレーターの作業ができる方がいらっしゃいましたら、名古屋NGOセンター事務局までご連絡下さい。